



特定非営利活動法人 印旛沼広域環境研究会
 〒285-0837 佐倉市王子台5-6-33
 TEL FAX: 043-462-1105
 E-mail: npo-inba@ar.wakwak.com

発行人 高山久治
 印刷 NPOいんば

2018年1月号

No. 30

NPOいんば・臨時総会開催 (2017年9月19日)

此の度の臨時総会開催は次の主な理由によります。

- 1, 特定非営利活動促進法の改正(平成28年6月)
 - ※ 資産の総額の登記が不要となります。それにより貸借対照表の公告が必要になりますので、公告方法として、当会のホームページに掲載することを加えます。
 - ※ 事業報告書等の備え置く期間が約5年に延長されます。(今までは約3年)
 - 2, 特定非営利活動促進法の改正(平成24年4月)
 - ※ 文言の変更がなされ計算書類が「収支計算書」から「活動計算書」に改正されています。それに伴い各所の文言が変更になります。
 - 3, 当会設立時からの太田勲理事長の逝去に伴い事務所が変更になります。
- ◎ 以上の点から臨時総会を開催しました。
 なお臨時総会に先立ち、8月22日(火)の理事会において新理事長に高山久治氏、副理事長に谷光峻氏が選任されました。

総会開催日時 2017年(平成29年)
 9月19日 午後4時から

開催場所 公園地会館 大会議室

議案

第1号議案 定款の変更について
 原案のとおり可決承認されました。

なお、相談役として高山久治理事長の指名によりお二人を委嘱し、ご本人の承諾をいただきました。

平成29年度 顧問・相談役名簿 《平成29年9月19日(敬称略)》

役職	氏名	略歴
名誉顧問	富山 和子	日本環境問題論家・立正大学名誉教授
名誉顧問	小出 義雄	佐倉アスリート倶楽部(株)代表取締役
顧問	小倉 久子	印旛沼流域水環境健全化会議委員
相談役	高橋 修	鹿島川土地改良区事務局長
相談役	太田 徹	株式会社 大和 代表取締役

平成29年度 役員・事務局名簿 《平成29年8月22日》

役職	氏名	
理事長	高山 久治	
副理事長	谷 光峻	
理事	高石 直治	
理事	中村 光夫	
理事	本橋 育子	
理事	萩原 靖子	
監事	立崎 定幸	
監事	塚本 清一	
広報委員	岡本 久幸	
事務局長	園原 悦子	
事務局次長	宇都宮 正博	

第6回印旛沼・流域再生大賞受賞 (当会の設立以来の活動に対して)

【講評】

笠井記念舟戸水草園の造成・維持管理、水草バンクシステムの構築、無洗米の普及、印旛沼に関する講演会の開催、小学校での印旛

沼船上体験などの体験学習や出前授業など、多彩な活動を長年にわたり継続されてきた点を高く評価します。

特に笠井記念舟戸水草園でアサザなどの在来水草を再生・保全し、再生したアサザなどを印旛沼流域の小中学校のビオトープや池に移植し、増えた株を別の学校で増やし、最後には印旛沼に戻す「水草バンクシステム」の構築は、独創的で先駆的な取り組みであると高く評価します。また、印旛沼を愛し、印旛沼・流域の環境改善を目指して長年様々な活動に取り組まれてきた故太田理事長には、その精力的な活動が、健全化の取り組みの発展に大きく貢献されたことに感謝と敬意を表します。



授与された賞状

平成29年10月28日
印旛沼流域水環境健全化会議
委員長 虫明 功臣



表彰式の模様

発行のご挨拶 理事長 高山 久治 「太田理事長の逝去を悼んで」

皆様方には、特定非営利活動法人印旛沼広域環境研究会の活動に常日頃からご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

既にご承知のこととは存じますが、当会前理事長太田勲は本年7月24日逝去いたしました。つきましては私高山が理事会の互選により後の重責を引き継ぐことになりました。

前理事長太田勲の高邁な理想「昔のように泳げる印旛沼」実現の為に微力ながら努力してまいりますがこの重責を努めるために関係者各位のご支援とご協力をお願いする次第でございます。前理事長太田勲同様にお引き立

てのほどよろしくお願い申し上げます。

さて、今般関係者皆様方にお世話になりつつ生涯を印旛沼に捧げた太田勲氏の功績に敬意を表し、NPOいんばニュース号外版として「～太田勲理事長の逝去を悼んで～」を発刊いたしました。

生前太田勲氏とかかわりの深い方々の思い出・エピソードを寄せていただきました。



関係各機関の皆様方におかれましてはどうかご一読下さしまして「印旛といえば太田さん」の笑顔と人柄を共に偲んで下さいましたら、故人も喜ぶものと思います。

なお、発刊にあたり株式会社コミュニティデザイン様に多大なるご協力を賜りましたことに感謝申し上げます。

印旛沼流域環境・体験フェア開催 【第15回(10月28日)】

平成二十九年十月二十八日(土)、千葉県印旛沼流域水環境健全化会議主催の第十五回印旛沼流域環境・体験フェアが佐倉ふるさと広場で開催されました。当日は朝から雲に覆われすっきりしない日和でしたが、会場には周囲のゴミ拾いを終えた方々ははじめ、多くのお子さん連れの観客が顔を見せ、大変賑やかな雰囲気に包まれました。会場の周囲に設置されたテントには当NPOいんばをはじめ、「いんば有機野菜生産組合」、「NPO石鱈の街」などがそれぞれ店を構えて、「石鱈作り」を公開し、当会では今年もテント前で大きな容器に水を張り、生きたどじょうを手つかまえる「どじょうつかみ」を行い、集まった多くのお子さん達を喜ばせました。



夢中でどじょうを掴む子供達の姿

会場の東側に設けられたステージでは和太鼓やジャズバンドの演奏に加え「ゆうなみさん」のライブコンサートなどが披露され、観客の目を引き付けていました。また今回のフェアでは当会ははじめ印旛沼の環境保全に功績のあった三団体に対して、「印旛沼・流域再生大賞」が授与されました。

こうしていろいろなイベントで会場を盛り上げ、また会場を訪れた方々に楽しんでいただいた今年のフェアも小雨がぱらつき始めた午後三時過ぎに閉幕を迎えました。なお引き続き二十九日開催予定の二日目の行事は台風による降雨のため中止となっています。



印旛沼流域 小中学校訪問 「アサザの育成状態調査」



今年も水草バンクシステムの一環として、印旛沼流域の小中学校の池に移植しているアサザの生育状態を調べるため、次のとおり各グループ毎の学校訪問を行いました。

【印西グループ：7月14日実施】

《本埜第二小学校・陣内孝浩校長先生》

池の1/2位にアサザが元気に育ち開花していた。昨年より生育状態は良好であった。

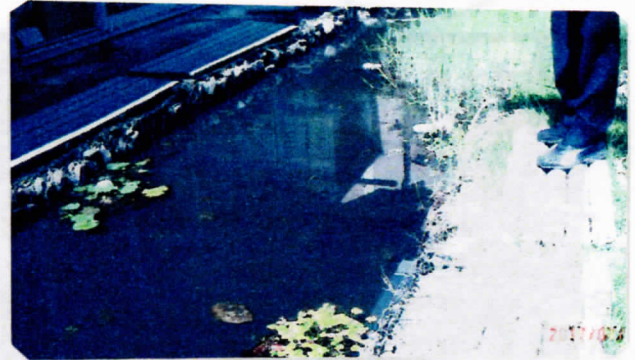
宗像小学校は本年度6年生は0名、2～3年生は合併クラスとなっている。（2学年で16名以下の場合合併クラスとなる。本埜小学校も全生徒数は40名強。



《いには野小学校・吉野高明校長先生》

1階庭の池は未だザリガニが飼育されており、アサザは3株のみであった。2階ベランダに水槽2ケにてアサザを生育しており、こちらは元気に育っていた。吉野校長先生は教育委員会の綿貫先生（元いには野校長）からアサザのことは聴いていた。インターネットで調べ、多少は勉強されたとのこと。

（注）7月18日吉野校長先生より電話があり、「今朝ベランダの水層の中で花が咲いたので先般の本で調べたところアサザではなくガガブタであった。アサザにガガブタが混じていたようである」との連絡があった。



《印旛中学校：渡辺義規校長先生》

池の浄化装置のポンプが破損し取り替えを申請中であるが予算がなく先延ばしされている池にはアサザは全滅。再移植するにしてもポンプが取り替えられてからになる。

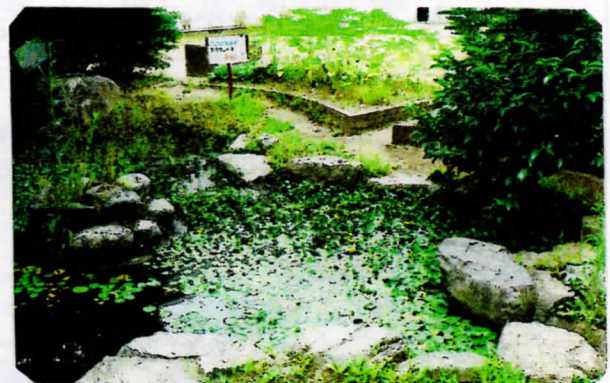
《六合小学校：九門恵子校長先生》

校長先生は出張に出掛けるところで挨拶のみ、御子柴教頭も不在。池は全面に睡蓮が繁茂。アサザは全滅。

【臼井グループ：7月19日実施】

《志津小学校》

花はややこぶりながら順調に生育しているが、池の水量が昨年同様には不足気味で、水に浸らないアサザが3割程度見受けられ、このままだとアサザの生育に影響するので水の管理に留意してくれるよう申し入れた。



《王子台小学校》

アサザは昨年並に順調に生育している、が残念ながら花の姿は全く見られなかった。

ただし、他の雑草などは生えておらず、アサザの葉だけが水面を飾っていた。

《 千代田小学校 》

池には昨年と同様に睡蓮とアサザが上手に分割した状態で生育されており、アサザは小さいながら見事に黄色い花をつけていた。



《 間野台小学校 》

池全体に生育しているが花は咲いておらずアサザの根の周りに藻が纏わり付いており、生育を阻害している感じがした。

《 染井野小学校 》

池には雑草ばかりでアサザの姿は全く見られなかった。学校側で池の整備を行った上で再度移植する旨伝え、学校側も再移植を望んでいる。

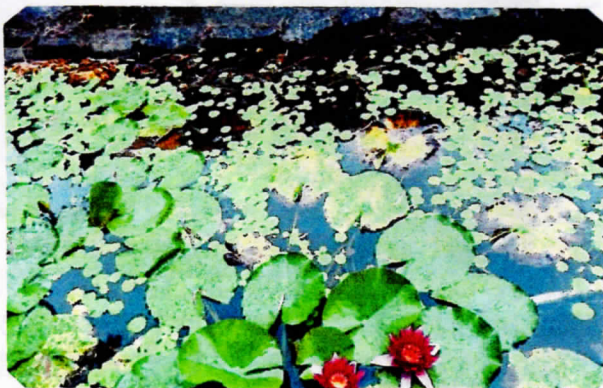
【 佐倉グループ：7月27日実施 】

《 和田小学校 》

ザリガニが繁殖しマツモが全滅。アサザは半分になっていた。学校では児童に指導しながらザリガニを取り除いている。

《 弥富小学校 》

プランターに根付いて広がった。睡蓮と共存している。



《 山王小学校 》

池の一部ではあるが花が咲きひろがっている。クロメダカが増えて良好。

《 寺崎小学校 》

昨年水路を確保し良好。メダカと共存。ヒメガマが順調に育っている。

《 佐倉東小学校 》

開花はないがアサザが増えた。タヌキモと共存している。

《 佐倉小学校 》

印旛沼を形どった池全体に広がり、毎日花を咲かせている。優秀。



◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 編集後記 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

明けまして御目出度うございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

広報紙「NPOいんばニュース」も今回で30号の節目を迎え、また、昨年10月に開催された第15回印旛沼流域環境・体験フェアにおいてこのフェアの主催団体である千葉県印旛沼流域水環境健全化会議より「印旛沼流域・再生大賞」が授与されるなど、当会にとって誠に華々しい年明けとなっていたはずでしたが、大賞受賞前の7月に太田勲理事長が病のため永眠されるという大変悲しい出来事に遭遇し、会員一同まだその悲痛から抜けだせず、心にもやがかかった心境です

これからは心を入れ替え、故太田理事長のご意志を引き継ぎ、高山新理事長のもと新体制で当会の活動を継続していく所存です。

会員の皆様はもとより関係機関の皆様におかれましてはなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。